

地域住民招き陶芸教室

宇治支 高等部生徒が講師役

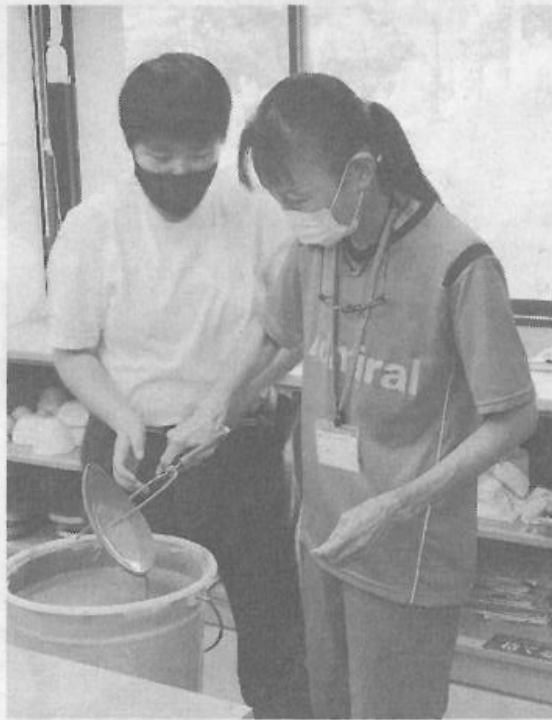
府立宇治支援学校(細矢義伸校長)は30日、地域の人を招いて陶芸教室を行った。

同校は「市街地の立地条件を生かして、地域との交流を展開し、地域に貢献する学校」をコンセプトとしている。窯業の授業で学んだ技術を生かす陶芸教室は例年行われてきた

が、コロナの影響により3年ぶりの開催となった。

この日は、4人の地域住民が参加。高等部・3年生のうち希望した6人が講師となり1人ずつ指導をした。作業は、皿の釉掛けとマグネットまたは箸置きの磨き体験。

釉掛けは専用の器具



で皿を挟んで持ち、バケツにたっぷり入れた釉薬に漬けて引き出した。釉薬は織部釉など数種類から、あらかじめ選んだ。磨き体験

は、型抜きして乾かした粘土の角を道具で滑らかに整える細かい作業。参加者は合間に生徒らとの交流も楽しんだ。

終了後は感想を発表。「初めての経験だが、丁寧に教えてもらえ、楽しかった」などの声が上がった。

作業した作品は学校で本焼きをした後、参加者に届けられる。

【写真―生徒に教える参加者】